

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(5月18日～5月24日)

2021年5月27日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ベラルーシ当局が独立系メディア Tut.by への強制捜査を実施。(5/18)
- ベラルーシ当局が、ベラルーシ領空を飛行していた民間航空機をミンスクの空港に緊急着陸させ、同機に搭乗していた反政権ジャーナリストを拘束(5/23)
- ルカシェンコ大統領、電気通信、マスメディア、大規模行事の規制を強化する諸法律に署名。(5/24)

【ルカシェンコ大統領動静】

●電気通信関連法規の改正法に署名。

当該改正の発効により、国家は電気通信網と電気通信手段の機能を制限することができる。具体的には、国家の安全に脅威をもたらす状況を予防する目的で、利用時間や容量を縮小したり、稼働体制を変更したり、機能を一時停止させることが可能となる。

(5/24 大統領公式サイト、ベラパン通信)

●マスメディアに関する法規の改正法に署名。

当該改正の発効により、以下の事項が導入される。

- ・マスメディア及びインターネット上で広めることが禁止される情報の範囲が拡大される。
- ・認可を受けずに実施された社会・政治情勢に関する世論調査の結果を公表することが禁止される。
- ・禁止された情報や資料へのハイパーリンクの掲載や投稿が許可されなくなる。
- ・外国法人、外国人、無国籍者及び外国が関与している法人は、マスメディアの設立者には成れない。
- ・確立された秩序を破って実施される大規模行事を、その普及や宣伝の目的で、リアルタイムで報道することは禁止される。

(5/24 大統領公式サイト、ベラパン通信)

●大規模行事規に関する法規の改正法に署名。

当該改正の発効により、以下の事項が導入される。

- ・大規模行事は地方当局の許可を得た場合にのみ実施可能となる。
- ・大規模行事実施に際する秩序違反に対して問われ

た責任に関連する費用を補償するために、金銭を集め、受領し、または使用してはならず、或いは仕事を行い、サービスを提供してはならない。

(5/24 大統領公式サイト、ベラパン通信)

【外交】

●保健省は、新型コロナウイルスの中国製ワクチンの追加支援を受けたことを発表。

中国はベラルーシに対して30万回分(15万人分)の中国国営製剤企業シノファーム社製 SARS-CoV-2(Vero Cell)ワクチンを提供。ワクチン提供に関する公式文書は、ドミトリー・ピネヴィチ・ベラルーシ保健大臣及び謝小用・駐ベラルーシ中華人民共和国特命全権大使により署名された。

(5/18 保健省公式テレグラム)

●ミシェル欧州理事会議長(EU 大統領)、ライアンエア一機の緊急着陸と反体制派ジャーナリストの拘束について、声明を発出。

5月23日、ミシェル氏は声明で「可能な限り強い言葉で非難する。この出来事は結果を伴う。」と強調。

(5/23 ベラパン通信)

●EU 首脳会議、加盟国に対して対ベラルーシ制裁の導入を要請。

5月24日にブリュッセルで開かれた首脳会議で、ベラルーシ航空(ベラヴィア)機による領空の飛行と加盟国内の空港の使用を禁止し、加盟国の航空会社にベラルーシ領空の飛行を避けることを求めるよう、EU加

盟国に要請することを決定。

(5/24 ベラパン通信)

●**グテーレス国連事務総長、ライアンエア機の緊急着陸について、完全で透明性のある独立した捜査の実施を呼びかけ。**

(5/24 ベラパン通信)

●**ベラルーシとラトビアの間で、相手国外交官を国外退去させる決定の応酬。**

・24日、ラトビア外務省報道局は、エイナルス・セマニス駐ベラルーシ・ラトビア大使が同日、ベラルーシ外務省に召致され、その場でラトビア大使館の外交官を国外退去させるとの決定を知らされたと発表。大使は24時間以内、その他の外交官は官房職員1名を除いて48時間以内にベラルーシを立つこととなった。

・ベラルーシ側の行動に対して、ラトビア外務省は駐ラトビア・ベラルーシ臨時代理大使を召致し、「関係正常化まで」の間、同様の措置を取ってベラルーシの外交官を退去させることを通知した。

・両国の外交関係が先鋭化した理由となったのは、5月24日に、アイスホッケー世界選手権が開催されているリガにおいて、リガ市長のマルティンシュ・スタキス氏がリンケヴィチ外務大臣と共に、ベラルーシ国旗を、白赤白にリトアニア大公国の紋章をあしらった旗に差し替えたことであった。

(5/24 ベラパン通信)

●**英国政府、国内航空各社に対してベラルーシ領空飛行を停止するよう指示を出し、ベラルーシ航空(ベラヴィア)に対する英国内の運航許可を停止。**

(5/24 ベラパン通信)

【内政】

●**ベラルーシ当局が独立系メディア Tut.by への強制捜査を実施し、同社のニュースサイトがアクセス不可に。**

・5月18日、ベラルーシ当局は Tut.by の編集部に対して捜査を実施し、同月20日までに税不払いの廉で

同社の編集者や記者ら少なくとも14人を拘束した。

・5月18日以降、Tut.by ニュースポータルサイトは情報省の決定で停止された。同省によると、理由は「(Tut.by が) マスメディアに関する法律に違反した事実が多数ある」こと。

・国家統制委員会は、有限責任会社「Tut.by メディア」職員らに対して、巨額の税支払いの回避(刑法第243号第2項)の廉で刑事事件が提起された旨発表。

・在ミンスク EU 代表部、米国大使館が当局の対応を非難し、メディアの自由の保障の必要性を訴える旨の声明を发出。ベラルーシ・ジャーナリスト協会も、メディアに対する攻撃を停止するよう、当局に要請する旨声明。

・19日、ラフブ英外相が「ベラルーシ当局は抑圧を停止して政治犯全員を解放しなければならない」旨声明。リンケヴィチス・ラトビア外相、コルチョコク・スロバキア外相らが相次いで同旨の声明を发出。さらに、欧州議会や欧州対外活動庁並びにフランス、ウクライナ、チェコなど各国の外務当局が同旨の声明を发出。

(5/18-20 ベラパン通信)

●**ベラルーシ当局が、ベラルーシ領空を飛行していた民間航空機をミンスクの空港に緊急着陸させ、同機に搭乗していた反政権ジャーナリストを拘束。**

・5月23日、ベラルーシ領空を飛行していたアイルランドの民間航空会社ライアンエアのアテネ発ビリニユス行き FR4978 便が、航空機内に爆発物が仕掛けられた可能性があるとの情報に接し、同日13時15分にミンスク空港に緊急着陸した。緊急着陸の受け入れ指示はルカシェンコ大統領によってなされ、同機の着陸に際して、ベラルーシ空軍の戦闘機ミグ29及び攻撃用ヘリコプター・ミル24が出動した。

・その後、現地当局によって機体、乗客及び荷物等の安全検査が行われたが、爆発物は発見されず、その後同機は同日にビリニユスに向けて出発し、21時25分に同地に到着した。

・同便には、反ルカシェンコ政権テレグラム・チャンネル NEXTA の創設者の一人であり、以前から国家騒乱罪等の容疑でベラルーシ当局から指名手配されて

いたジャーナリストのロマン・プロタセヴィチ氏が搭乗しており、同人はミンスク空港で拘束された。また、24日、同人の交際相手の女性も拘束された。なお、ベラルーシの法律によると、プロタセヴィチ氏は死刑判決を受ける可能性がある。

・ベラルーシ捜査委員会は、当該航空機への爆発物設置に関する偽情報に関して刑事事件を提起した。

・在ベラルーシの米及び独大使館、EU 代表部などがウェブサイトやSNSに、本国の非難声明を掲載。

(5/23, 24 ベラパン通信、TUT.BY テレグラム・チャンネル)

●ベラルーシ当局がライアンエアー機の緊急着陸に関するプレス・ブリーフィングを実施。

ブリーフィングはシクロフスキー運輸・交通省航空局長、航空管制を担う「ベルアエロナヴィガーツィヤ」のチュロ代表及びゴルブ・ベラルーシ空軍・防空部隊司令官によって実施された。

・シクロフスキー運輸・交通省航空局長は23日にミンスク空港に接したとされる(ライアンエアーFR4978便に爆発物を仕掛けたとの)メールの内容を次のとおり公表した。

「我々ハマスの戦士たちは、ガザ地区におけるイスラエルによる空爆停止を求める。我々はEUに対して、この戦争においてイスラエルを支持することを放棄するよう求める。Delfi Economic Forumの参加者達が(FR)4978に搭乗していると承知している。当該航空便には爆弾が仕掛けられている。我々の要求に従わなければ、爆弾は5月23日にビリニュス上空で爆発する。」

・ゴルブ・ベラルーシ空軍・防空部隊司令官によると、ライアンエアー機に対しては、緊急着陸に際して如何なる強制も行われなかった。

(5/24 ベラパン通信)

●ミンスク空港に対して、ルフトハンザ航空便に対するテロ予告のメールが接到。

5月24日、ミンスク空港に、同日14時20分ミンスク発フランクフルト行きルフトハンザ航空LH1487便に

対してテロを起こすとの差出人不明のメールが届いた。その後、乗客の搭乗手続きが一時停止され、機体、乗客、荷物の検査が実施されたが、テロを裏付ける証拠は確認されなかった。同便は同日16時15分に離陸した。

(5/24 ベラパン通信、ミンスク空港ウェブサイト)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表、山崎駐リトアニア日本大使とオンライン会談を実施。

両者はベラルーシにおけるTut.byメディア社他に対する圧力について議論。また、チハノフスカヤ氏は、6月にロンドンで実施されるG7サミットに参加する用意があることを表明。

(5/21 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ民主勢力代表、Tut.byに対する強制捜査実施について声明を発表。

5月18日、公式ツイッターアカウントで「今日、我々は皆、独立系ポータルTut.byに対する計画殺害の目撃者となった」旨の声明をツイート。

●チハノフスカヤ民主勢力代表、ライアンエアー機の緊急着陸と反体制派ジャーナリストの拘束について声明を発出。

5月23日、公式ツイッターアカウントでロマン・プロタセヴィチ氏の即時解放、国際民間航空機関(ICAO)による調査、及びベラルーシ政権に対する制裁を要請する旨の声明をツイート。

(了)